

大飯原発の再稼働に反対する

2012年4月10日 核戦争に反対する医師の会

4月6日、野田内閣は関西電力大飯原発3,4号機の「再稼働基準」を決定した。9日には関西電力が再稼働に向けた安全対策計画（工程表）を枝野経産相に提出、今週中にも経産相が福井県を訪れ再稼働を要請すると報道されている。大飯原発の再稼働に向けた動きが急進展している。

私たち「核戦争に反対する医師の会」は、広島・長崎の原爆被爆者の放射性障害を前にして医学が無力であることを痛感し、治すことができないなら予防することを決意して核兵器廃絶を進めている団体である。昨年3月11日の福島原発事故で大量に放出された放射性物質による放射線障害も、核兵器の放射線障害と何ら変わらない。この立場から私たちは大飯原発をはじめ、すべての原発の再稼働に反対である。

第1に原発は、いったん事故が起きればそれを制御することが全くできないものである。政府は昨年12月に原発事故の「収束宣言」を行ったが、福島原発には今も1基当たり毎時10トン近い水が注入され、かろうじて炉心を冷やしているのが現状である。また原発からは、毎時1千万ベクレル（2月時点）もの放射性物質が大気中に放出されており、これを止めることもできていない。そもそも核燃料がどこにどのような状態であるかも見ることもできていないのである。

第2に今回の政府の「再稼働基準」は、以上のような福島原発の現状から全くかけ離れたものである。津波などによる全電源喪失を防止する対策ができていないか、ストレステストの一次評価結果を確認しているかなどからなっているが、津波を避ける防波堤は関電の「工程表」によれば13年度中に完成させるものだという。またストレステストの一次評価については、枝野経産相が「ストレステストをやったから安全性が評価されるわけではない」、原子力安全委員会の斑目委員長も「1次評価だけでは安全評価として不十分で二次評価までやっていただきたい」と国会で答弁しているのである。

第3に大飯原発がある若狭地区には多数の活断層が存在しており、今回の東日本大震災のような「連動地震」が起きる可能性も否定できない。日本は文字通り地震大国であり、1995年1月の阪神・淡路大震災、2011年3月の東日本大震災とわずか16年の間に2回の巨大地震を経験している。

大飯原発で同様の大地震が発生して原発事故が生じた場合、50キロ圏内には京都、大津市などがあり、大阪市も80キロしか離れていない。これらの地域が高濃度の放射性物質で汚染される恐れがある。

大飯原発の再稼働には国民の62%が「反対」している（毎日新聞3月31日）。放射能被ばく者を1人も増やすことのないよう、私たちは大飯原発の再稼働に反対する。

以上